



かわにし 70 年

なつかしの写真展

ー川西市制 70 周年プロジェクトー

川西市は 2024 年に市制 70 年を迎えます。

川西市が市民にとって「大切なまち」であり続けることを目的とし、100 周年のミライを見据え「笑顔つづくミライへ。」をテーマに様々な事業を実施します。「なつかしの写真展」では、市制 70 周年を記念して川西の過去を振り返る写真展を年間通して市内の様々な場所で開催します。当時の人々の暮らしや街の様子などの貴重な歴史・文化を記録し、未来に向けて後世に伝えます。

ー市制施行ー

川西市は昭和 29 年（1954）8 月 1 日に川西町・多田村・東谷村の 1 町 2 村の合併により市制施行
市制施行当時の人口は 33,741 人、世帯数は 7,490 世帯であった。

ー川西市の変遷ー

昭和 40 年代日本経済の発展に伴い人々の生活が豊かになり始めた頃、川西市でもより良い生活環境を求め、郊外での戸建て住宅への需要が高まり、中北部の大規模開発が行われベッドタウン化が進んだ。

市内で最も早く開発された地域は多田グリーンハイツであり、これに続いて昭和 41 年（1966）阪急北ネオポリス（現在の大和団地）の分譲が始まった。

阪急北ネオポリスは「新しい都市」という意味でネーミングされ開発が進められたが、町名をつける際に「大和西」と「大和東」が採用されたため、現在では「大和団地」が馴染みの名称となっている。

昭和 47 年（1972）には団地内に市立牧の台小学校が開校し、開校当初の児童数は 719 人を擁し、ピーク時には 1,300 人以上が通学した。その後昭和 51 年（1976）には小学校の隣に牧の台幼稚園が開園した。

経済の発展と大規模な宅地開発により著しく人口が増加する一方、深刻な水不足が問題となっていた。このため洪水調節機能をもったダムをつくり、新たに 50 ～ 60 万人分の都市用水を生み出す多目的ダムの建設計画が誕生する。昭和 43 年（1968）に調査所を開設してから昭和 59 年（1984）まで 16 年の歳月をかけ完成したダムが、淀川水系猪名川の支川一庫大路次川に建設された一庫ダムである。現在の一庫ダム周辺は、四季折々の美しい自然に包まれ、ハイキングや釣りなど様々なレジャーを楽しむスポットとして親しまれている。

鉄道では昭和 49 年（1974）に畦野トンネルが完成し一の鳥居駅から畦野駅間の線の改良・立体化が完了する。その翌年に畦野駅が現在の場所に移転した。さらに昭和 52 年（1977）には能勢電鉄の平野・山下駅間の複線化工事が完了し、大阪方面への通勤通学として益々便利になった。

ー市民公募 写真提供者様ー

能勢電鉄株式会社 様

板垣 太郎 様

加味 忠司 様

西村 真理子 様

（順不同）

開催場所・期間（予定）：

- | | |
|--------------------|----------------|
| ①川西市役所（屋内） | 1 月中旬～ 12 月下旬 |
| ②多田神社（屋外） | 終了しました。 |
| ③キセラ川西プラザ（屋外） | 4 月初旬～ 12 月下旬 |
| ④川西市立ギャラリーかわにし（屋内） | 終了しました。 |
| ⑤けやき坂中央公園（屋外） | 9 月初旬～ 10 月中旬 |
| ⑥川西市郷土館（屋外） | 10 月中旬～ 11 月下旬 |



なつかしの写真展 市 HP

川西市 70 周年事業 特設 HP



■いずれも鑑賞無料になります。 ■開催場所や期間は現状の予定となりますので、変更する可能性があります。

■詳しい開催場所や期間・時間等については、市 HP（右記の二次元コード）から発信しますので、ご確認をお願いします。

主催：川西市 問い合わせ先：川西市市長公室 市制 70 周年記念事業事務局 072-740-2034（直通）